

別 冊

地域振興県土警察常任委員会資料

(平成30年8月21日)

1 第9回中海会議の開催結果について

【河川課】……1ページ

県 土 整 備 部

第9回中海会議の開催結果について

平成30年8月21日
広域連携課
水環境保全課
農地・水保全課
河川課

沿岸住民の生命と財産を守り、美しい中海の自然環境を次代に引き継ぐため、中海の水に関する諸問題を協議検討する第9回中海会議の開催結果は次のとおりです。

- 1 日時 平成30年8月20日(月) 午後2時から午後4時まで
- 2 場所 ANAクラウンプラザホテル米子(米子市)
- 3 構成員 国土交通省中国地方整備局長、農林水産省中国四国農政局長、鳥取県知事、島根県知事、米子市長、境港市長、松江市長、安来市長
〈オブザーバー〉 環境省(中国四国地方環境事務所長)、防衛省(美保基地司令)

4 概要

(1) 中海及び境水道の堤防、護岸等の整備について

- 部会「中海湖岸堤等整備に係る調整会議」(事務局：中国地方整備局出雲河川事務所)から、中海湖岸堤整備事業の進捗状況等について報告があり、意見交換を行った。
- 大橋川改修事業の条件として、大橋川拡幅の前段階で中海湖岸堤を先行して時系列的に整備する手順を踏まえ事業が進められていることについて、改めて確認がなされた。

[報告の概要]

- ・ 鳥取県側における中海湖岸堤の短期整備箇所(6箇所)のうち5箇所(米子空港南等)が完成済。残る1箇所(貯木場)も工事着手予定であり、短期整備箇所については概ね完了の目途がついた。
- ・ 短中期整備箇所(5箇所)のうち、平成28年度から前倒して着手している3箇所(貯木場北、貯木場南、米子港)について、引き続き整備を促進する。

[主な意見]

- ・ 河川整備計画に「境水道の護岸整備については、市の内水対策が明らかになった時点で調整を図り、必要な堤防整備を図る」とされており、現段階で市の下水道事業計画の事業認可が最終段階となっていることから、内水被害のある境水道外江護岸の整備を進めていただくようお願いする。(境港市)
→ 境水道外江護岸についても、関係機関と調整を進めてまいりたい。(国交省)

(2) 中海の水質及び流動、覆砂検討について

- 部会「中海の水質及び流動会議」及び「中海・覆砂ワーキンググループ」(事務局：鳥取県生活環境部)から、水質測定結果や水質改善の取組及び流域、外海、湖内及び窪地が水質に与える影響や底質対策のための土質条件の整理等を報告して、今後も継続して対策を進めることを確認した。

[報告の概要]

- ・ 平成29年度の中海の水質は、COD(化学的酸素要求量)は第6期水質保全計画の水質目標値を達成した。環境基準12地点において、全窒素は10地点、全りんは9地点は目標達成したが、全12地点での達成でないことから目標は未達成。環境基準値も未達成である。
- ・ 水質は長期的には改善傾向であり、これまでの下水道整備や流入負荷対策等の効果である。
- ・ 昨年度の同会議において、窪地等の水質への影響について、各エリアに区分して評価すべきとの意見を受け、中海13地点において、表層と底層に区分して、各負荷源の水質への影響度を検証したところ、全窒素、全りんともに表層では流域からの影響が大きく、底層では外海から影響が大きく、湖底や窪地からの影響は小さいことを確認した。
- ・ ただし、窪地が点在する米子湾周辺では、底質及び窪地からの影響が、他の地点に比べると相対的に大きいことを確認した。
- ・ 窪地の全部埋戻し、または一部覆砂を実施する水質シミュレーションでは、水質改善効果は小さい

ものの、米子湾周辺では、湖心に比べて効果が相対的に大きいことを確認した。

- ・ 今後は、河川等からの流入負荷対策を継続し、湖内の底質の負荷対策である浅場造成・覆砂事業の早期完成を目指すこと、併せて、今後の水質改善に繋がる窪地を含めた底質対策を行うため情報整備や手法の検討を行うことを確認した。

[主な意見]

- ・ 浅場造成と覆砂事業については、効果があるということなので、引き続き進めていただきたい。(米子市、安来市)
- ・ 窪地は何か対策があるのか。(松江市)
 - 今回の検証で少なからず窪地が影響を与えることが確認されたことから、どういった工法が水質改善に有効であるかなど、コスト面も含めて検討していきたい。
- ・ 流入負荷対策は生活排水対策が進んできているので、他の自然系など総合的な取り組みを短期・中期的に分けて考えていくべきだ。(米子市、安来市)
 - 平成31年度策定の第7期の水質保全計画の中で検討したい。
- ・ 海藻刈りの支援は引き続きお願いしたい。(境港市)
 - 関係者の意見を聞きながら、支援のあり方を検討する。

(3) 中海沿岸農地の排水不良について

- 「中海沿岸農地排水不良ワーキンググループ」(事務局：米子市経済部) から、中海沿岸農地の排水不良の取組状況について報告された。

[報告の概要]

- ・ 平成29年3月に崎津モデルほ場に合計約2,000立方メートルの公共残土を搬入した。
- ・ 公共残土による客土が排水不良対策に一定の効果を上げていることから、関係機関が公共残土に関する情報の共有化を図り、引き続きストックヤード方式による公共残土受入れをさらに促進していく。

(4) 中海の利活用について

- 「中海の利活用に関するワーキンググループ」(事務局：島根県政策企画局) から、中海及びその周辺の利活用の状況について報告された。

[報告の概要]

- ・ 中海周遊サイクリングについて、本年度は伯耆国「大山開山1300年際」記念イベントとして「弁慶ライド2018」が開催されたことについて報告された。
- ・ 松江市の中海北西岸に、水陸両用機の拠点施設が完成し、中海を拠点にした遊覧飛行と連携した中海周遊観を図る必要があることについて意見交換した。

[主な意見]

- ・ 水陸両用機の発着場を含めたサイクリングロードの拡充について、引き続き検討していただきたい。(松江市)

(参考) 中海会議とは

平成21年12月19日に締結した鳥取、島根両県知事の「協定書」の趣旨に鑑み、沿岸住民の生命と財産を守り、美しい中海の自然環境を次代に引き継ぐため、新たに中海の水に関する諸問題を協議検討するため設置(平成22年4月22日)した会議。